

「メディア漬け」からの脱却

佐渡市教育長 児玉 勝巳

1960年代に、国の「所得倍増」の掛け声のもと、高度経済成長時代に入っていました。1964年に東京五輪開催に合わせ新幹線が開通し、カラーテレビが各家庭に普及していきます。生活は便利になりましたが、



生産性の高かった家庭の場が、消費性の高いものとなり、子どもたちの生活環境も大きく変化してきました。

私が子どもの頃にはテレビ番組は常時放映されておらず、テレビ局もNHKの他に民放が1局位しかありませんでした。ところが時代とともに、放送局が増え、子どもにとって刺激的な番組が常時放映されるようになりました。

テレビのみでなく、コミック雑誌も氾濫し、さらにはテレビゲーム、インターネット、スマートフォン等々、続々と新しいメディアが発売されてきています。

メディアによる弊害を懸念し、メディアリテラシー教育に取り組んでいる国がある一方、日本はほぼ野放し状態です。メディアにどっぷりと漬かった世代が親になっていますので、子どもたちのメディア漬けからの脱却は簡単ではないと察しられます。



しかし、学習意欲の低下や、いじめ問題等々の背景には、メディア漬けの現状があることを認識し、学校・家庭・地域が連携し、真剣に取り組まなければ、ますます大変な時代となります。

交通事故・違反に要注意！

管理主事 山田 裕之

今年度もよろしくお願いいたします。

平成28年度の教職員の交通事故・違反についてまとめてみました。

交通事故	交通違反	
	速度超過	その他
15	4	6

交通事故については、平成27年度が17件でしたので、ほぼ横ばいの状況です。人身事故はありませんでした。最も多かったのが追突7件で、全体の半数を占めています。

速度超過は、平成27年度は0件でしたので、大変残念な結果と言わざるを得ません。3件は制限時速40kmの道路で、1件は高速道路で起きています。

その他6件は、一時停止違反(2件)、携帯電話使用違反、シートベルト装着義務違反、横断歩道歩行者優先義務違反、信号無視違反です。こちらも急増してしまいました。警察の取締りも厳しくなっているようです。

校長会等でも繰り返し伝えていますが、**交通違反は運転者本人の自覚で防止することが**できるはずですが、ハンドルを握っている間は、常に緊張感をもって運転してください。

また、事故や違反を起こした際すぐに管理職に連絡しなかったため、教育委員会への報告が遅れた事案が何件ありました。たとえ休日であっても、事故や違反を起こした時には、できるだけ速やかに管理職に報告してください。ご自身の携帯電話に管理職の電話番号は登録してありますか？まだの方は、すぐに登録してください。

年度初めの業務で、疲労がピークに達している方も多いと思います。事故・違反にはくれぐれも気をつけてください。



学びに向かう学級集団づくりを

指導主事 後藤 修治

この4月から、指導主事としてお世話になっております。各学校の先生方からは、佐渡市の学力向上施策についてご理解、ご協力をいただきありがとうございます。一年間よろしく願いいたします。

昨年度の佐渡市児童生徒の学力実態については、4月14日の学力向上施策等方針説明会でお示した通りです。NRT学力調査結果からは、目標値に対し（偏差値平均小学校53以上、中学校50以上）維持・向上を続けており、知識・理解面においては概ね良好と言えます。先生方の日々のご尽力のおかげと感謝申し上げます。しかし、全国学力・学習状況調査の結果からは、B問題において全国平均をここ数年下回っており、活用力育成が課題と言えます。今年度も、自校・自学級の学力実態に応じた授業改善や取組を継続してお願いいたします。

さて、新年度がスタートしてもうすぐ1か月が経とうとしています。学級や授業のスタートは順調にきれたでしょうか？学力向上の要は日々の授業（改善）です。さらに日々の授業の基盤は、学びに向かう学級集団・雰囲気、学び合える人間関係です。まずは、学びに向かう学級集団づくりにご尽力いただければ幸いです。

佐渡市教育委員会では、今年度も支援訪問等で学力向上に向けた取組（授業改善）のお手伝いをさせていただきます。よろしく願いいたします。

子ども理解

教育指導主事 山岸 善晴

毎年度末、市内全小中学校に行っている生徒指導上の調査回答が集計できましたので、3年間分を以下の表にしました。

年度	内容			いじめ			不登校		
	小	中	計	小	中	計	小	中	計
26年度	17	4	21	13	44	57			
27年度	16	8	24	20	34	54			
28年度	26	19	45	19	54	73			

いじめの認知件数については、前年比で倍増しています。全校体制で「小さいいじめも見逃さない」という職員の協働実践の表れでもあると思います。いじめの事案で解決が難しいのは、小学6年の場合は3・4年頃に、中学生の場合は小学時にあったいじめが複雑に絡み合ってねじれ、彼我の力関係が逆転して深刻化している場合が多くありました。人間関係の修復ができず転校を決意した事例も数例ありました。「江戸の敵を長崎で討つ」的様相をどう紐解くかは「子ども理解」の仕方にかかっているといっても過言ではありません。

不登校児童生徒の人数も倍近くになっています。いろいろな要因はありますが、「授業が分からない」「学習についていけない」等、困り感を抱えている場合が多いようです。子ども一人ひとりの困り感をどのように聞きとり、その困り感に寄り添ってどんな対応策を立てるかは、やはり「子ども理解」に尽きるのではないのでしょうか。

まず、子どもたちをじっくり見ませんか。

職員の異動のお知らせ

学校教育課「管理・指導部門」では、今年度次のとおり職員の異動がありました。

退職	指導主事	平野 徹	（佐渡市立真野小学校へ）
	教育指導主事	矢田 親成	（退職）
新任	指導主事	後藤 修治	（学習指導関連業務担当）
	教育指導主事	大山 誠	（理科教育センター業務担当）

